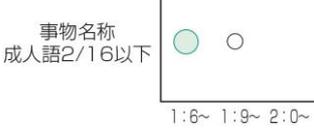


『言語発達遅滞の言語治療 改訂第2版』 正誤表

このたびは上記書籍をご購入いただきまして誠にありがとうございます。

本書(2009年10月20日 第1刷)に、下記のような修正・変更点がございます。読者の皆様にはご迷惑をおかけいたしまして誠に申し訳ございません。恐れ入りますが、修正・変更を賜りますようお願い申し上げます。

箇所	誤	正
11 ページ 表 1-7 3 側面	3) コミュニケーション 機能	3) コミュニケーション 態度
18 ページ 図 1-5 右側四角枠内の一番下 事物名称 成人語 2/16 以下の 1:6~ の円	 <p>(緑色の円となっている)</p>	 <p>(黒縁の白い円に変更)</p>
39 ページ 左段 6 行目	できる段階 (= 選択) まで…	できる段階 (= 段階 2-3 選択) まで…
55 ページ 表 2-10 タイトルと下の表説明 1 行目	U. I. 君	U. H. 君
55 ページ 表 2-10 下の表説明 3 行目	※ 2	※ 3
55 ページ 表 2-10 下の表説明 4 行目	※ 3	※ 2
75 ページ 図 3-4 上下中央の一番右掲載の三角形の下	③ -2 かこみ	② -2 かこみ
90 ページ 右段 3 行目と 9 行目 91 ページ 図 3-28 タイトルと左段 2 行目 と下から 3 行目 96 ページ 右段下から 7 行目 97 ページ 表 3-4 タイトル 98 ページ 右段下から 10 行目 139 ページ 表 3-21 タイトルと右段 3 行目 140 ページ 左段 1 行目と 19 行目	U. I. 君	U. H. 君

(つづく)

箇所	さしかえ図表																																																																																																																						
9 ページ 表 1-5	<p>次の表とさしかえてください <u>(「知的発達の遅れ」の右隣の列〔空欄になっている〕に、「特異的な言語発達の遅れ」の列が追加となる)</u></p>																																																																																																																						
表 1-5 小児の言語聴覚障害の種類																																																																																																																							
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2" style="width: 10%;">種類※</th> <th colspan="3" style="width: 30%;">言語発達遅滞</th> <th rowspan="2" style="width: 10%;">聴覚障害</th> <th rowspan="2" style="width: 10%;">機能的構音障害</th> <th rowspan="2" style="width: 10%;">口蓋裂</th> <th rowspan="2" style="width: 10%;">脳性麻痺</th> <th rowspan="2" style="width: 10%;">吃音</th> </tr> <tr> <th style="width: 10%;">対人関係の障害</th> <th style="width: 10%;">知的発達の遅れ</th> <th style="width: 10%;">特異的な言語発達の遅れ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>主訴</td> <td colspan="3">ことばが遅れている</td> <td>聞こえない</td> <td>発音がおかしい</td> <td>声が鼻にかかる 発音がおかしい</td> <td>発声や発音がおかしい</td> <td>どもる</td> </tr> <tr> <td rowspan="7">症状</td> <td>聞こえ</td> <td>むらがある</td> <td></td> <td></td> <td>音の大きさで反応が異なる</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>発声・発語器官</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>先天奇形</td> <td>運動障害</td> <td></td> </tr> <tr> <td>人や物への関心</td> <td>偏りがある</td> <td>遅れる</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>言語理解</td> <td>遅れる 偏りがある</td> <td>遅れる</td> <td>遅れる場合がある</td> <td>視覚に頼る傾向がある</td> <td></td> <td></td> <td>遅れる場合がある</td> </tr> <tr> <td>音声・構音</td> <td>遅れる 偏りがある</td> <td>遅れる</td> <td>多くの音が困難 音節結合が困難</td> <td>残存聴力による</td> <td>特定の音が困難</td> <td>開鼻声、異常構音</td> <td>運動能力による</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ことばのリズム</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>不自然なことがある</td> <td>繰り返すつかえる</td> </tr> <tr> <td>全般的発達</td> <td>偏りがある</td> <td>遅れる</td> <td>遅れる場合がある</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>遅れる場合がある</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">障害の性質と行動の特徴</td> <td>外界との相互交渉の偏り</td> <td>外界の認知が未分化・未発達</td> <td>?</td> <td>聴神経が十分に働かない</td> <td>?</td> <td>先天奇形</td> <td>受胎から新生児期までに生じた脳の損傷による姿勢・運動のコントロールの障害</td> <td>?</td> </tr> <tr> <td>↓ コミュニケーションの成立・維持が困難</td> <td>↓ 言語発達の速度が遅い</td> <td>↓ 理解できるが特別に音声表現が困難</td> <td>↓ 音声を受け入れる感度が悪い</td> <td>↓ 特定の音韻規則の習得の障害</td> <td>↓ 発語器官の機能が不十分で共鳴や構音の障害</td> <td>↓ 発声・発語器官の機能障害</td> <td>↓ 話しことばのリズムの障害</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">対策</td> <td colspan="3">言語発達促進</td> <td rowspan="2">聴力の改善(薬物、手術)と残存聴力の活用・補償： ・補聴器装着 ・聴能訓練 ・読話訓練 ・発語訓練</td> <td rowspan="2">構音訓練： ・語音の弁別 ・音節分解・同定 ・語音の産生</td> <td rowspan="2">機能の改善(手術、装具)と構音訓練： ・言語管理 ・ブローイング ・構音訓練</td> <td rowspan="2">機能訓練と発声・構音訓練： ・摂食指導 ・姿勢・呼吸・発声 ・発語器官 ・構音 ・AAC</td> <td rowspan="2">言語環境の配慮と流暢性促進訓練： ・環境調整 ・遊戯治療 ・言語訓練(機器、諸技法)</td> </tr> <tr> <td>コミュニケーションを配慮した言語獲得訓練</td> <td>認知を配慮した言語獲得訓練</td> <td>理解面を配慮した発語訓練</td> </tr> </tbody> </table>										種類※	言語発達遅滞			聴覚障害	機能的構音障害	口蓋裂	脳性麻痺	吃音	対人関係の障害	知的発達の遅れ	特異的な言語発達の遅れ	主訴	ことばが遅れている			聞こえない	発音がおかしい	声が鼻にかかる 発音がおかしい	発声や発音がおかしい	どもる	症状	聞こえ	むらがある			音の大きさで反応が異なる				発声・発語器官					先天奇形	運動障害		人や物への関心	偏りがある	遅れる						言語理解	遅れる 偏りがある	遅れる	遅れる場合がある	視覚に頼る傾向がある			遅れる場合がある	音声・構音	遅れる 偏りがある	遅れる	多くの音が困難 音節結合が困難	残存聴力による	特定の音が困難	開鼻声、異常構音	運動能力による		ことばのリズム							不自然なことがある	繰り返すつかえる	全般的発達	偏りがある	遅れる	遅れる場合がある				遅れる場合がある		障害の性質と行動の特徴	外界との相互交渉の偏り	外界の認知が未分化・未発達	?	聴神経が十分に働かない	?	先天奇形	受胎から新生児期までに生じた脳の損傷による姿勢・運動のコントロールの障害	?	↓ コミュニケーションの成立・維持が困難	↓ 言語発達の速度が遅い	↓ 理解できるが特別に音声表現が困難	↓ 音声を受け入れる感度が悪い	↓ 特定の音韻規則の習得の障害	↓ 発語器官の機能が不十分で共鳴や構音の障害	↓ 発声・発語器官の機能障害	↓ 話しことばのリズムの障害	対策	言語発達促進			聴力の改善(薬物、手術)と残存聴力の活用・補償： ・補聴器装着 ・聴能訓練 ・読話訓練 ・発語訓練	構音訓練： ・語音の弁別 ・音節分解・同定 ・語音の産生	機能の改善(手術、装具)と構音訓練： ・言語管理 ・ブローイング ・構音訓練	機能訓練と発声・構音訓練： ・摂食指導 ・姿勢・呼吸・発声 ・発語器官 ・構音 ・AAC	言語環境の配慮と流暢性促進訓練： ・環境調整 ・遊戯治療 ・言語訓練(機器、諸技法)	コミュニケーションを配慮した言語獲得訓練	認知を配慮した言語獲得訓練	理解面を配慮した発語訓練
種類※	言語発達遅滞			聴覚障害	機能的構音障害	口蓋裂	脳性麻痺	吃音																																																																																																															
	対人関係の障害	知的発達の遅れ	特異的な言語発達の遅れ																																																																																																																				
主訴	ことばが遅れている			聞こえない	発音がおかしい	声が鼻にかかる 発音がおかしい	発声や発音がおかしい	どもる																																																																																																															
症状	聞こえ	むらがある			音の大きさで反応が異なる																																																																																																																		
	発声・発語器官					先天奇形	運動障害																																																																																																																
	人や物への関心	偏りがある	遅れる																																																																																																																				
	言語理解	遅れる 偏りがある	遅れる	遅れる場合がある	視覚に頼る傾向がある			遅れる場合がある																																																																																																															
	音声・構音	遅れる 偏りがある	遅れる	多くの音が困難 音節結合が困難	残存聴力による	特定の音が困難	開鼻声、異常構音	運動能力による																																																																																																															
	ことばのリズム							不自然なことがある	繰り返すつかえる																																																																																																														
	全般的発達	偏りがある	遅れる	遅れる場合がある				遅れる場合がある																																																																																																															
障害の性質と行動の特徴	外界との相互交渉の偏り	外界の認知が未分化・未発達	?	聴神経が十分に働かない	?	先天奇形	受胎から新生児期までに生じた脳の損傷による姿勢・運動のコントロールの障害	?																																																																																																															
	↓ コミュニケーションの成立・維持が困難	↓ 言語発達の速度が遅い	↓ 理解できるが特別に音声表現が困難	↓ 音声を受け入れる感度が悪い	↓ 特定の音韻規則の習得の障害	↓ 発語器官の機能が不十分で共鳴や構音の障害	↓ 発声・発語器官の機能障害	↓ 話しことばのリズムの障害																																																																																																															
対策	言語発達促進			聴力の改善(薬物、手術)と残存聴力の活用・補償： ・補聴器装着 ・聴能訓練 ・読話訓練 ・発語訓練	構音訓練： ・語音の弁別 ・音節分解・同定 ・語音の産生	機能の改善(手術、装具)と構音訓練： ・言語管理 ・ブローイング ・構音訓練	機能訓練と発声・構音訓練： ・摂食指導 ・姿勢・呼吸・発声 ・発語器官 ・構音 ・AAC	言語環境の配慮と流暢性促進訓練： ・環境調整 ・遊戯治療 ・言語訓練(機器、諸技法)																																																																																																															
	コミュニケーションを配慮した言語獲得訓練	認知を配慮した言語獲得訓練	理解面を配慮した発語訓練																																																																																																																				
<p>※外傷や感染症などによる小児失語症は略されている。</p>																																																																																																																							

(つづく)

73 ページ
図 3-2

次の図とさしかえてください

(動作主・動作の語彙項目が変更となり、プログラムの工程が1つ追加される)

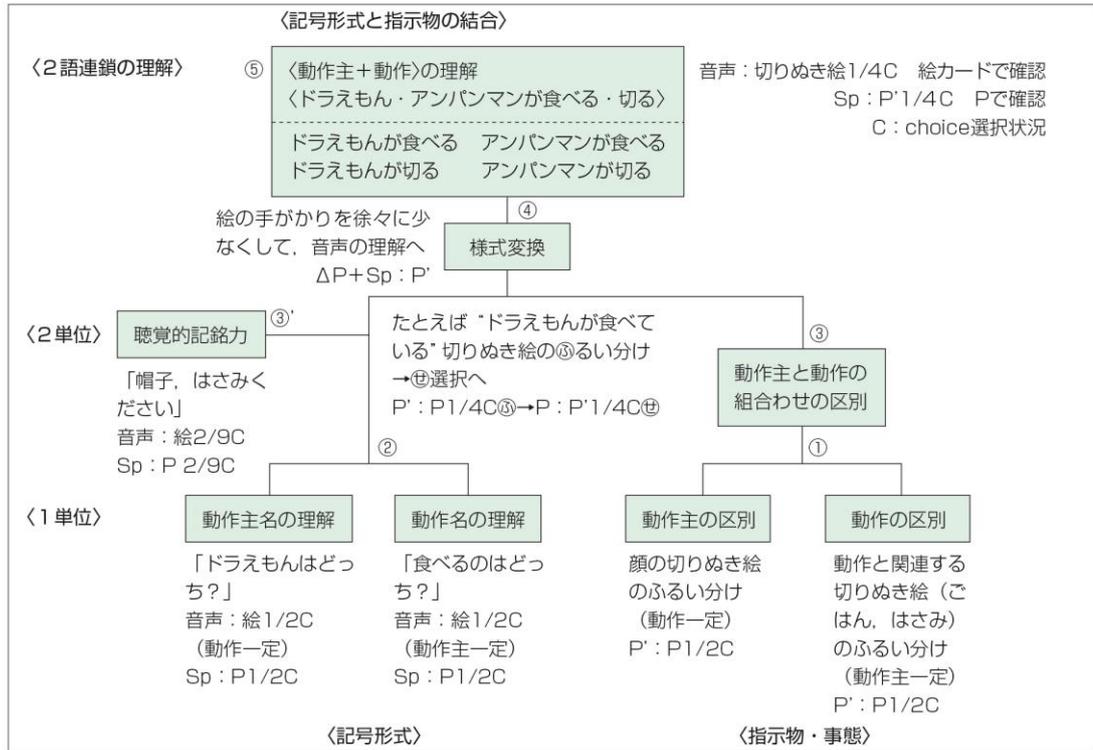


図3-2 2語連鎖(動作主+動作)(理解)の訓練プログラム*

⑤の目標行動を形成するために、小課題に分け、順に達成を図る。訓練で用いる材料について、①動作主、動作の視覚的区別(事態の構成成分の分解)→②動作主名、動作名の理解→③動作主と動作を組み合わせた事態の区別(事態の構成成分の分解・合成)の達成後、④動作主名と動作名を組み合わせた2語連鎖の音声と絵の結合を図る(様式変換)。②と③が成立しないときは、④に進まない。時に③'2単位の聴覚的記憶力を訓練する。④では、記号の水準を配慮する(成人語・幼児語・身ぶり・事物名〈ごはん、はさみ〉)、刺激を強化する(誤った語を正しく連呼)などを行い、正反応を誘導する。

※小寺富子、伊東由紀：2語連鎖(理解)の訓練プログラム、言語発達障害研究会第7回学術セミナー 2013年7月発表、言語発達障害研究2014年6号掲載予定

(つづく)

171 ページ
図 4-7

次の図とさしかえてください

(幼児語の 3~4 歳の三角形を黒から緑に変更。また、その三角形から伸びる曲線も黒から緑に変更)

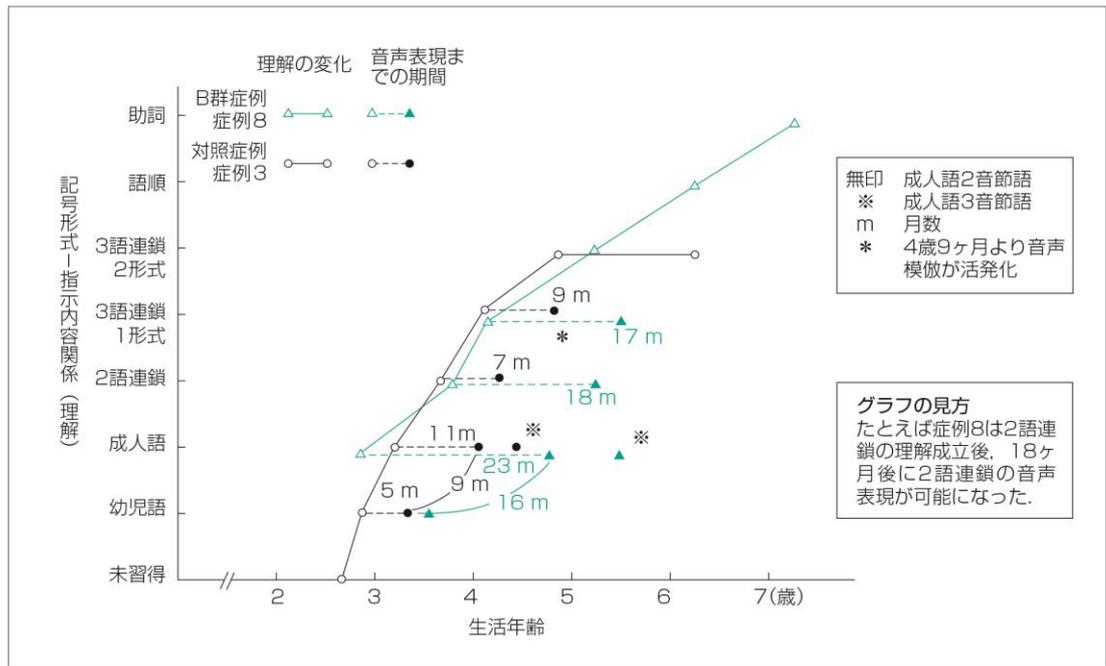


図4-7 症例8と症例3の理解と音声表現の発達

以上